

学術フォーラム・公開シンポジウム・サイエンスカフェ等の
開催予定について

令和3年12月3日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
12月4日（土） 12：45～17：45	オンライン開催	公開シンポジウム 「戦後アジアの地域再編と学術の共同—分断・ 協調・再分断を超えて—」
12月4日（土） 13：00～16：50	オンライン開催	公開シンポジウム 「グリーンリカバリーへの植物保護科学の貢 献」
12月5日（日） 13：00～17：50	オンライン開催	学術フォーラム 「地球環境変動と人間活動—地球規模の環境 変化にどう対応したらよいか—」
12月5日（日） 13：30～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「コロナ禍における人間の尊厳—危機に向き 合って—」
12月5日（日） 14：00～16：00	コラッセ福島／ オンライン開催	サイエンスカフェ 「サイエンスカフェ in 福島 リケ女と科学を 語ろう」
12月6日（月） 10：00～17：00	日本学術会議講 堂／オンライン	公開シンポジウム 「第11回計算力学シンポジウム」
12月8日（水） 13：00～16：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「地球と生命をつなぐ高度な化学物質ネット ワーク - 天然物化学再考 - 」
12月11日（土） 10：00～17：45	オンライン開催	学術フォーラム 「我が国の学術政策と研究力に関する学術フ ォーラム— 我が国の研究力の現状とその要因 を探る—」
12月11日（土） 13：30～16：00	オンライン開催 ／オンデマンド	公開シンポジウム 「With/After コロナ時代におけるケアの課題 と新たな取り組み—子育てをしながら働き、働 きながら暮らすための地域共生社会」
12月12日（日） 14：20～17：00	名古屋国際会議 場／オンライン	公開シンポジウム 「口腔疾患の予防・治療・保健教育の場も喫煙 防止・禁煙支援指導などの喫煙対策の場として 活用すべきである」

12月13日（月） 13：00～17：30	オンライン開催	学術フォーラム 「ELSI を踏まえた自動運転の社会実装ー自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザインー」
12月13日（月） 13：00～17：50	オンライン開催	公開シンポジウム 「科学的知見の創出に資する可視化（7）：人間を識り活かす総合知をもたらす「視考」
12月18日（土） 11：00～12：00	オンライン開催	サイエンスカフェ 「サイエンスカフェ in 東京 お米で糖尿病予防！？」
12月19日（日） 13：00～16：00	オンライン開催	公開ワークショップ 「Future Earth 持続可能な社会の創り手を育てる学び～海の学び、ESD／SDGs の学びを豊かに～」
12月19日（日） 14：00～18：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ ー大学・企業・学協会におけるダイバーシティ推進に向けた取り組みー」
12月23日（木） 14：50～16：20	東京大学伊謝恩ホール	公開シンポジウム 「プラスチックのガバナンス：感染症制御のための衛生環境管理と資源循環」
12月25日（土） 13：00～14：30	福岡市科学館	サイエンスカフェ in 福岡 「乳酸菌が作る抗菌物質・バクテリオシン～食べるだけではもったいない乳酸菌の力～」
12月25日（土） 13：00～16：30	オンライン開催	日本学術会議 中部地区会議主催学術講演会 「SDGs に向けた大学の取り組み」

公開シンポジウム「戦後アジアの地域再編と学術の共同—分断・協調・再分断
を超えて—」

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会アジアの地域協力と学術ネットワーク構築分科会
2. 共 催：京都大学 東南アジア地域研究研究所、
東京大学 グローバル地域研究機構韓国学研究センター
琉球大学 島嶼地域科学研究所
早稲田大学 東アジア国際関係研究所
神奈川大学 国際日本学部
3. 後 援：朝日新聞社
4. 日 時：令和3年12月4日（土） 12：45～17：45
5. 場 所：オンライン開催（1部、3部日本、2部国際セッション）
※日本学術会議講堂（報告者一部）ハイブリッドでの開催
日本学術会議公開シンポジウム プログラム：
https://www.scj.go.jp/ja/event/2021/317-s-1204-2.html?fbclid=IwAR1_3pVJOCjRK7GJNg7LlriKmN2pobRZsvc4QaJ3XaxpBGX9zDmkdvoGS.jk
申し込み：
<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0K1DI5ViMaWrVTZDJywbpUArQ2anFcb03F5a5UJgBoUw-fw/viewform>
6. 分科会の開催：開催

7. 開催趣旨：

第2次世界大戦が終焉して、早や76年がたつ。その間東アジアは、アメリカ・欧州と連動しながら、冷戦：冷戦の終焉：新冷戦—分断・協調・再分断を経験し、現在に至っている。

第二次世界大戦は、日本と近隣諸国との関係においては、日本の大陸侵攻という不幸な歴史がありその歴史的トラウマが戦後から現在まで続いている。また、戦後和解とエネルギーの共同によって、不戦共同体・統合を実現してきた欧州も、近年は問題が顕在化している。

冷戦の終焉後、地域経済共同の進展によって遅ればせながら、世紀転換期に、世界とアジアに広がったASEAN, APEC, RCEP, CPTPPなどの地域協力・地域共同関係は、中国の急速な経済・IT技術・軍事技術発展を背景とする地政学

的環境の変化により、ここ 10 年間で極めて悪化し、むしろ東アジアの新冷戦とでも呼べるような状況を呈している。

そうした中で、脈々と続いてきた、経済関係、学術的連携も現在暗礁に乗り上げているように見える。

東アジアにおける分断・協働・再分断の中、学術会議を中心とする、学術的な二国間関係、多国間連携の試みはこれを乗り越え繋ぐことができるだろうか。

本シンポジウムでは、第 2 次世界大戦下から 3 段階にわたる、分断・統合・再分断の波の中における、日本とアジアの国際関係と学術関係の非対称の中から、3 つのセッションにより、現状と展望を探る。

1) 戦争と戦後の日中韓三国関係と地域共同の枠組み

2) ロシア・モンゴル・朝鮮半島・インド：新たなアジア関係

Russia, Mongolia, Korean Peninsula, India: New Asian Relations

3) 東アジアの地域秩序の変容－中国およびアメリカの戦略と域内の論理

8. 次 第：

学術会議挨拶

12:45 学術会議会長

梶田 隆章（日本学術会議会長、東京大学宇宙線研究所・教授）

12:50 第 1 部 副部長

溝端 佐登史（日本学術会議会員、京都大学名誉教授・経済研究所特任教授）

12:55 趣旨説明 分科会委員長

羽場 久美子（日本学術会議連携会員、世界国際関係学会（ISA）アジア太平洋会長、青山学院大学名誉教授、神奈川大学教授）

第 1 セッション：戦争と戦後の日中韓三国関係と地域共同の枠組み

First Session: War and Postwar Japan-China-Korea Trilateral Relations and Regional Joint Framework

13:00－ 貴志 俊彦（日本学術会議連携会員、京都大学東南アジア地域研究研究所教授） 第 1 部 総合司会

13:00 1) 稲森 雅子（九州大学大学院専門研究員）

『開戦前夜の日中学術交流 民国北京の大学人と日本人留学生』

13:10 2) 木宮 正史（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究

科教授)

『国際政治における韓国政治のダイナミズムと学術協力』

13:20 3) 我部 政明 (日本学術会議連携会員、琉球大学名誉教授)

『戦後日米関係と沖縄をめぐる安全保障』

13:30 4) 大日方純夫 (日本学術会議連携会員、早稲田大学名誉教授)

『未来をひらく歴史—日中韓連携の継続的発展』

13:40-14:00 (20 分) (討論)

第2セッション：ロシア・モンゴル・朝鮮半島・インド：新たなアジア関係 Second Session, Russia, Mongolia, Korean Peninsula, and India: New Asian Collaboration

14:00- General Moderator Kumiko Haba (SCJ Associate member,
Emeritus Professor of Aoyama Gakuin University, Professor of
Kanagawa University)

14:00 1) 清水 武則 (元モンゴル大使)

Takenori Shimizu (Former Japanese Ambassador to Mongolia)

「モンゴル民主化後の日・モンゴル連携と将来展望」

Japan-Mongolia Cooperation after Mongolia's Democratization
and Prospects for the Future

14:10 2) Viktor Larin (Academician of Russian Academy of Sciences,
Vice-chairman of Far-Eastern branch of RAS)

Russian Far East Asian Strategy and collaboration with Asia

14:20 3) Korean Peninsula: Sang Chul Park (Professor of Korea
Polytechnic University)

RCEP, CPTPP・ADB and East Asian Collaboration

14:30 4) India: Pradeep Chauhan (Associate Professor of Kurukshetra
University)

SAARC, BIMSTEC and Academic Collaboration of South Asia

14:40-15:00 (20 分) (討論) Discussion

15:00-15:30 (30 分) 休憩 Coffee Break

第3セッション：東アジアの地域秩序の変容－中国およびアメリカの戦略と域内の論理」

Third Session: Transformation of East Asian Regional Order: China and American Strategy and the Logic in this Region

15:30－ 三重野 文晴 第3部 総合司会

15:30 1) 三重野 文晴（日本学術会議連携会員、京都大学東南アジア地域研究研究所教授）

『東南アジアの経済発展と金融協力』

15:40 2) 金山 直樹（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法科大学院名誉教授）

「国際法枠組みによるアジアの地域秩序形成」

15:50 3) 高原 明生（東京大学大学院教授）

「現代中国の内政と外交」

16:00 4) 羽場 久美子（日本学術会議連携会員、世界国際関係学会(ISA)アジア太平洋会長、青山学院大学名誉教授、神奈川大学教授）

「アメリカの東アジア戦略：「価値の同盟」QUAD、AUKUS と東アジア」

100 years of World Wars, How to create New World Order?

16:10-16:30 (20分) (討論)

16:30-17:30 総合討論 (司会) 我部 政明（日本学術会議連携会員、琉球大学名誉教授）

16:30-16:40 コメント 沢村 互（朝日新聞論説委員、前アメリカ総局長、元欧州総局長）

「アメリカからみたアジアメディアの役割」

17:30 閉会の辞

小長谷 有紀（日本学術会議会員、独立行政法人日本学術振興会監事）

日本学術会議公開シンポジウム

グリーンリカバリーへの 植物保護科学の貢献

令和3年12月4日(土)

13:00~16:50

Zoomによるオンライン配信

参加 無料(事前申込制)

事前参加申し込み締切: 11月27日(土)

メールで下記申し込み先までお申し込みください
ZoomのURLをお知らせいたします

主催

日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会
日本植物保護科学連合(日本植物病理学会,
日本応用動物昆虫学会, 日本農薬学会,
日本雑草学会, 植物化学調節学会)

13:00~13:05 開会挨拶

松本 宏 (日本学術会議第二部会員・植物保護科学分科会委員長)

13:10~13:45 グリーンリカバリーに貢献する持続可能な害虫防除-天敵利用を中心として-

日本 典秀 京都大学大学院農学研究科教授
座長: 徳田 誠 佐賀大学農学部准教授

13:45~14:20 グリーンリカバリーに資する植物病害防除法の開発基盤-抵抗性誘導剤と微生物農薬-

能年 義輝 岡山大学大学院環境生命科学研究科准教授
座長: 山次 康幸 東京大学農学生命科学研究科教授

14:20~14:55 みどり戦略における緑肥活用の意義

荒木 肇 新潟食料農業大学 食料産業学部教授
座長: 水口 亜樹 日本学術会議連携会員・福井県立大学生物資源学部准教授

14:55~15:10 (休憩)

15:10~15:45 植物ホルモン・アブシシン酸の機能調節による耐乾性制御

岡本 昌憲 宇都宮大バイオサイエンス教育研究センター准教授
座長: 岡田 憲典 東京大学農学生命科学研究科准教授

15:45~16:20 グリーンリカバリーを目指したネオオーガニック

松田 一彦 近畿大学農学部 応用生命化学科教授
座長: 塩月 孝博 島根大学生物資源科学部教授

16:20~16:50 総合討論

渡辺 京子 日本学術会議連携会員・玉川大学農学部教授

申し込みおよび問い合わせ先: 松本 宏 E-mail: hmatsu@biol.tsukuba.ac.jp

日本学術会議主催 学術フォーラム



地球環境変動と人間活動

—地球規模の環境変化にどう対応したらよいか—

共催：地球惑星科学委員会地球人間圏分科会

後援：日本地球惑星科学連合、地理学連携機構、日本地理学会、日本地形学連合、
日本第四紀学会、東京地学協会

人新世において自然と人間の関係に変化が生じている。沿岸域での海面上昇の影響、寒冷地域における氷河や永久凍土の融解、気候変動のみならず大規模な森林伐採や過放牧により進行する沙漠化など、陸域と海域の環境の変化は人間社会に大きな影響を及ぼし始めている。人新世における環境変化の本質は、完新世（過去1万年間）の変動史に位置づけることで明確になる。世界各地の地球温暖化の進行とその影響を報告し、地球規模の環境変化とその適応策について多角的に考察する。

日時：2021年12月5日（日）13:00～17:50

場所：オンライン、日本学術会議2階大会議室から発信

参加費：無料

お申し込み：申し込みフォーム <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html>

総合司会 長谷部徳子（日本学術会議連携会員 金沢大学教授）

開会挨拶 田近英一（日本学術会議会員 東京大学教授）

趣旨説明 鈴木康弘（日本学術会議連携会員 名古屋大学教授）

13:10-13:35 完新世の環境変動：阿部彩子（日本学術会議連携会員 東京大学教授）

13:35-14:00 水環境を含めた地球表層環境の進化と人間社会への影響：川幡穂高（日本学術会議連携会員 東京大学名誉教授）

14:00-14:20 気候変動と人間社会の歴史的関係から学ぶ—「変化」の速さに着目して：中塚 武（名古屋大学教授）

14:20-14:40 デルタにおける環境変動：齋藤文紀（日本学術会議連携会員 島根大学教授）

14:40-15:00 東京低地の環境変動：久保純子（日本学術会議連携会員 早稲田大学教授）

15:00-15:20 永久凍土分布域の土壌にみる環境変化：川東正幸（日本学術会議連携会員 東京都立大学教授）

15:20-15:40 生態系遷移と砂漠化—人間活動の影響：石井励一郎（総合地球環境学研究所准教授）

15:55-16:15 水資源から見た気候変動の影響評価：花崎直太（国立環境研究所気候変動適応センター 室長）

16:15-16:35 生態系を活用した気候変動適応：西廣 淳（国立環境研究所気候変動適応センター 室長）

16:35-16:55 気候変動への適応と社会のレジリエンス構築：三村信男（茨城大学特命教授）

16:55-17:45 質疑・総合討論 （司会：齋藤文紀・久保純子）

閉会挨拶 春山成子（日本学術会議会員 三重大学名誉教授）

内容に関するお問い合わせ：resilience.nagoya@gmail.com （名古屋大学 鈴木康弘）

コロナ禍における人間の尊厳

— 危機に向き合って —

2021年12月5日（日）13:30-17:00

オンライン開催（Zoomウェビナー・要事前申込）

申込フォームは日本学術会議HP「一般公開イベント」内本企画ページに

10月以降掲載予定（<http://www.sci.go.jp/ja/event/index.html>）

コロナ禍においては医療の逼迫した状態のなか、患者、医療者、市民の一人ひとりが必ずしも**人としての尊厳**を守られているとは言えない状況が現出している。さらに死者について人間らしい死とその弔いも守られることのない事例が生じている。しかし緊急事態だからやむを得ないのだろうか。本来「**人間の尊厳**」は、むしろ**危機**においてこそ守られるべき価値ではないのか。哲学、宗教研究、法学、医学の専門知と臨床の知見を集結し議論を深めたい。

司会

香川知晶（日本学術会議連携会員、山梨大学名誉教授）

13:30 開会挨拶

土井健司（日本学術会議連携会員、関西学院大学神学部教授）

13:40 報告 1

コロナ・パンデミックと人間の尊厳の問題

加藤泰史（日本学術会議連携会員、椋山女学園大学教授、一橋大学名誉教授）

14:00 報告 2

コロナ禍における『治療』へのアクセス

— 尊厳・人権枠組はどのような役割を果たしうるのか —

建石真公子（日本学術会議連携会員、法政大学法学部教授）

14:20 報告 3

危機に瀕する人間の尊厳—臨床の現場から—

齊尾武郎（医師、フジ虎ノ門整形外科病院）

14:40 報告 4

コロナ禍で障害のある人と家族が体験していること

児玉真美（フリーライター、一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事）

15:15 コメント 1

美馬達哉（立命館大学先端総合学術研究科教授）

15:30 コメント 2

岡田真水（兵庫県立大学名誉教授、日蓮宗僧侶）

15:45 ディスカッション

16:50 閉会挨拶

吉岡洋（日本学術会議第一部会員、

京都大学こころの未来研究センター特定教授）

主催 日本学術会議哲学委員会

共催 日本哲学系諸学会連合、日本宗教研究諸学会連合

お問い合わせ 日本宗教研究諸学会連合事務局 jfssr20084@gmail.com





The Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry



CORASSE FUKUSHIMA IVENT HALL (3F)

Guest Speaker

Venue (場所) : コラッセふくしま3F企画展示室

Time (時間) : 2021年12月5日 (日)

14:00 (13:45受付開始) - 16:00

Fee (参加費) : 500円 (新米1kg)

ライブ配信も行います。詳細はQRコードから
入手ください



参加希望者も
QRコードから
お申込みください。
50名先着となります



トークテーマ
あんほ柿のおいしさと
健康への秘密

Participation Favors (参加特典) : 新米(1kg)福島大学付属農場米

Other guest (ゲスト) : エウレカ (福島大科学部)



プログラム

13:45- 受付開始 (コラッセふくしま3Fイベントホール)

14:00- 開会のあいさつ

(杉森大助 (福島大学・共生システム理工学類))

14:25- 日本学術会議農芸化学分科会の紹介

(山下まり (東北大学大学院農学研究科・日本学術会議連携会員))

14:35- 基調講演 (鹿野仁美 (福島大学・食農学類))

15:00- 休憩

15:15- 科学実験をしよう!

1. 酵母じゃないよ酵素だよ!

パネエっす酵素

2. 色素とpH (紫キャベツ)

3. ややこしいヤジロベ

4. リケ女と語ろう

15:55- 閉会のあいさつ (平 修 (福島大学・食農学類))

コロナ感染対策について
感染対策については十分配慮して開催いたします。以下の項目にご協力お願いいたします。
・マスクの着用をお願いします。
・受付時に検温・手指の消毒にご協力をお願いいたします。
症状によっては、ご入場をお断りすることがございますので、あらかじめご了承ください。
37°C以上の発熱がある方、または発熱が続いている方
その他、体調に不安がある方

主催 日本農芸化学会
日本農芸化学会東北支部
共催 日本学術会議
企画 福島大学 (杉森 大助、平 修)

第11回 計算力学シンポジウム

主 催

日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会

共 催

可視化情報学会、CAE懇話会、日本応用数理学会、日本機械学会、日本計算工学会、日本計算数理工学会
日本計算力学連合、日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合

後援 自動車技術会

開催趣旨 我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手研究者が最新の成果を披露します。日本における広い分野の計算力学研究と活用の成果をまとめて聞くことができる貴重な機会です。また、「SDGsに貢献する計算力学の役割と今後」と題した特別企画を開催し、第一線で活躍中の研究者による特別講演と総合討論を行います。

日 時： 令和3年12月6日（月）10：00～17：00
会 場： 日本学術会議講堂／[webinar（リンク）](#)（ハイブリッド開催）
参加費： 無料
事前申込： [フォーム（リンク）](#)より登録ください
問合せ： cm11-symp@rerc.t.u-tokyo.ac.jp

次 第 各講演時間には5～10分の各学会長による講演者紹介と質疑応答を含みます

総合司会：越塚誠一（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻 教授）
古田一雄（東京大学大学院工学系研究科レジリエンス工学研究センター 教授）

10:00-10:10 開会の辞：

吉村 忍（日本学術会議第三部会員、東京大学副学長、大学院工学系研究科システム創成学専攻 教授）

第1部 若手研究者による講演

10:10-10:30 講演1（日本計算力学連合）

乙黒雄斗（東京理科大学理工学部機械工学科 助教）

「移動境界流体問題のSpace-Time法による定式化と複雑形状におけるIsogeometric離散化」

10:30-10:50 講演2（日本機械学会計算力学部門）

倉橋貴彦（長岡技術科学大学機械創造工学専攻 准教授）

「非破壊打撃試験に対する逆解析の適用」

10:50-11:10 講演3（日本計算数理工学会）

鈴木康祐（信州大学工学部機械システム工学科 准教授）

「埋め込み境界-格子ボルツマン法を用いた移動境界を伴う熱流動解析」

11:10-11:30 講演4（日本応用数理学会）

宇田智紀（東北大学材料科学高等研究所 助教）

「流線トポロジー解析の手法と応用」

11:30-13:00 昼休み

13:00-13:20 講演5（日本計算工学会）

大山 聖（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 准教授）

「多目的最適化の未来」

13:20-13:40 講演6（日本シミュレーション学会）

小林知嵩（早稲田大学大学院基幹理工学研究科 大学院博士課程）

「確率論的運動量保存則を用いた微小粒子の分裂解析について」

13:40-14:00 講演7（可視化情報学会）

松岡大祐（国立研究開発法人海洋研究開発機構 副主任研究員）

「機械学習の目で可視化する気象シミュレーション・衛星観測の表現能力」

14:00-14:20 講演8（CAE懇話会）

北畑雅弘（東レ株式会社先端材料研究所 研究員）

「大規模分子シミュレーションによる高分子設計」

14:20-14:40 休憩

第II部 特別企画「SDGsに貢献する計算力学の役割と今後 —デジタル技術を活用した産業と社会の持続的な発展—」

14:40-15:10 特別講演1

高橋桂子（早稲田大学総合研究機構 上級研究員・研究員教授）

「人と地球の関りからサステナブルな環境を創造する —マルチスケール・マルチフィジックスシミュレーションと予測—」

15:10-15:40 特別講演2

高田保之（日本学術会議第三部会員、九州大学 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 教授）

「高圧水素の熱的課題と熱物性値測定 —水素充填シミュレータの開発に関連して—」

15:40-16:50 総合討論

モデレーター 大出真知子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人物質・材料研究機構 主任研究員）

パネリスト 矢川元基（学術会議連携会員、原子力安全研究協会、東京大学・東洋大学 名誉教授）と特別講演者2名

16:50-17:00 閉会の辞

平野 徹（ダイキン情報システム株式会社 シニアスキルスペシャリスト）

連続公開シンポジウム

SDGs達成に向けた農芸化学の挑戦

第2回 地球と生命をつなぐ高度な化学物質ネットワーク
—天然物化学再考—

2021年 12月8日 (水)



参加費無料

事前参加申込制

ウェブ開催 どなたでも参加できます。
<https://forms.gle/N7XGp6qycGDwqW5AA>

13:00~13:15

来賓挨拶: 松山 旭

(日本農芸化学会会長, キッコーマン株式会社取締役常務執行役員)

趣旨説明: 東原 和成

(日本学術会議連携会員, 東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

13:15~13:55

「リポドミクス新技術と脂質多様性(リポクオリティ)の生物学: 健康と天然物」

有田 誠 (慶應義塾大学薬学部教授, 理研IMSチームリーダー)

13:55~14:35

「シングルセル解析から切り込む生体分子動態: 微生物と天然物」

竹山 春子 (早稲田大学大学院先進理工研究科教授)

14:35~15:15

「海洋生物の付着防止技術研究の展開: 地球環境と天然物」

沖野 龍文 (北海道大学地球環境科学研究院教授)

15:15~15:55

「生物間の複雑化学ネットワークと共進化: 生態系と天然物」

東樹 宏和 (京都市大学生態学研究センター准教授)

15:55~16:25

パネルディスカッション

「これからの天然物化学」

16:25~16:30

閉会挨拶: 山下 まり (日本学術会議連携会員, 東北大学 大学院農学研究科教授)

後援:

日本農芸化学会

日本農薬学会

日本薬学会

日本化学会

日本ケミカルバイオロジー学会

日本応用動物昆虫学会

マリンバイオテクノロジー学会

日本土壌微生物学会

お問い合わせ:

日本学術会議農芸化学分科会シンポジウム事務局

biol_chem@sense.ch.a.u-tokyo.ac.jp

我が国の学術政策と研究力に関する 学術フォーラム

— 我が国の研究力の現状とその要因を探る —

日 時／2021年 **12月11日(土)** 10:00～17:45
場 所／オンラインによる開催

●お申込み／日本学術会議ウェブサイト

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0110.html>

●参 加 費／無料



主催 日本学術会議

企画 課題別委員会「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」



今世紀に入ってから、日本の学術の国際競争力の後退が顕著に表れている。特に理工学工学系や生命科学分野に代表される自然科学分野においては、基礎科学だけでなくその応用技術分野においても顕著である。当該分野の出版総論文数やトップ1%論文数も低迷しており、ほとんどの統計的指標が我が国の学術・研究力の後退を示している。一方、我が国では1990年代初頭から、国立大学の大学院重点化や法人化など、教育研究機関の「改革」が次々を実施されるとともに、CSTI創設をはじめとする科学技術の振興に関わる政策も大きく変化した。これまで科学技術立国を目指すための様々な政策が実施されてきたにもかかわらず、この凋落傾向は改善されないばかりか、むしろ近年は加速傾向にある。この深刻な学術・研究力の後退の問題について、これまで専門家や批評家、各省庁や関係

機関から様々な解析や要因の指摘がなされてきた。日本学術会議においては期を超えて長期的に取り組むべき重要課題と考え、その要因を科学的に解明して将来の発展に繋がる途を探ることを目的として「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」を発足させたところである。この委員会のキックオフ活動として、これまで発出された様々な意見を総括するとともに、多様な視点から将来の学術の発展に向けた論議を進めるための学術フォーラムの開催を企画した。これにより日本学術会議の新たな活動を周知するとともに、この重要な問題に関する幅広い議論の活性化を目指している。また、日本学術会議の会員・連携会員を対象とする意見聴取のためのアンケート調査を並行して実施する予定であり、これに資する最新情報の共有を図ることも目的としている。

Time schedule

10:00～10:05	会長挨拶	梶田隆章(会長、第三部会員、東京大学宇宙線研究所教授)
10:05～10:15	開会挨拶・趣旨説明	山口周(第三部会員、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構研究開発部特任教授)
【午前の部】セッション1：データから見た我が国の研究力の現状		
10:15～11:15	(仮題)日本の科学研究の現状：科学技術・学術政策研究所の調査研究から	伊神正貫(科学技術・学術政策研究所 科学技術予測・政策基盤調査研究センター長)
11:15～12:00	(仮題)科学技術・イノベーション政策史からの視点：日欧比較	隠岐さや香(連携会員、名古屋大学大学院経済学研究科教授)
12:00～13:10	休憩	
【午後の部】セッション2：現在の状況の要因を探る		
13:10～14:10	わが国の研究力低下の要因と復活に向けた方策	豊田長康(鈴鹿医療科学大学学長)
14:10～14:55	日本の研究力向上に向けた制度的課題	林隆之(連携会員、政策研究大学院大学教授)
14:55～15:40	科学における国際的な知名度を得るためには何が必要か	川合真紀(連携会員、自然科学研究機構分子科学研究所所長)
15:40～15:55	休憩	
セッション3：パネルディスカッション		
15:55～17:25		モデレータ：元村有希子(毎日新聞論説副委員長) パネリスト(予定)：河村小百合(株式会社日本総合研究所調査部主席研究員)、 江村克己(連携会員、日本電気株式会社 NEC フェロー)、岸村顕広(連携会員、九州大学大学院工学研究院応用化学部門・九州大学分子システム科学センター准教授)、 伊神正貫(前掲)、隠岐さや香(前掲)、川合真紀(前掲)、豊田長康(前掲)、林隆之(前掲)
17:25～17:40	総括および今後の活動について	山口周(前掲)
17:40～17:45	閉会挨拶	西山慶彦(第一部会員、京都大学経済研究所教授)